



授業づくりの視点

社会的事象の中から疑問に思ったこと等を課題として見だし、予想したり、学習計画を立てたりする等、児童が主体的に授業に取り組むことができるように教材研究を深めましょう。

課題を追究したり解決したりする活動を充実させるために、「動機付け」「情報収集」「考察・構想」等、単元における学習過程を工夫した授業づくりを行いましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 安全な暮らしを守る [第4学年]

安全な生活を守る警察の諸活動について調べ、それらと人々の安全・安心な生活の維持・向上との関連や、安全・安心を守るための工夫や努力について考え、自分の言葉で適切に表現する単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

地域社会における人々の安全・安心な生活を守るための警察の働きと、そこに従事している人々や、地域の人々の工夫や努力を理解する。

思考力、判断力、表現力等

人々の安全・安心を守るための働きと、そこに従事している人々の工夫や努力について様々な立場から調べたり考えたりして、その過程や結果を適切に表現する。

学びに向かう力、人間性等

地域社会における人々の安全・安心な生活を守るための警察の働きについて進んで調べようとして、自らの生活に生かそうとしていく。

3 単元のデザイン 全10時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の課題をつかむ	◎ 前の単元で消防について調べたことを思い出し、単元のイメージをもつ。 ・ 警察の仕事は消防の仕事とどこが違うのかな。調べてみたいな。
交通事故が起きた時の、警察の活動について考える 本時	◎ 交通事故が起きた時の警察の活動について予想し、調べたり考えたりする。 ・ 警察はパトカーで現場にかけつけるのではないかな。 ・ 事故が起こったら、警察と消防が協力しながら活動するんだね。
インタビューや資料から警察の仕事の大切さについて考える	◎ 警察は人々の安全・安心な生活を実現するために、地域の人々と協力しながら様々な取組を行っていることを考える。 ・ 警察は、地域の人々と協力しながら安全・安心な生活を守っているんだ。
単元のまとめをする	◎ 分かったことや考えたことをまとめたり、自らの生活に生かしたりする。 ・ 私達が安心して生活できるのは、警察等の諸機関と地域の人々のおかげなんだ。 ・ 私も地域の一員として、交通安全の活動に参加してみよう。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 社会的事象から課題を見いだす場を設定することで、課題を自分事として捉えさせる。
- 単元全体の学びを振り返らせ、日々の社会生活に活用させる。

対話的な学び

- 警察等の役割について、互いの考えを伝え合う場を設定することで、新たな視点に気付かせたり、考えを広げさせたりする。

深い学び

- 分かったことを比較・関連付けする場を設定することで、他の単元や社会的事象に応用できる知識を獲得させる。

本時のねらい

交通事故が起きた時の警察の活動について資料を基に調べ、警察や消防が連携して迅速に対応していることについて考えることができる。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

本時のめあてをつかむ

◎ **事故現場の動画からの気づきを基にして、本時のめあてをつかむ。**

- ・交通事故が起こった場所に警察官がたくさん集まって話しているよ。
- ・交通事故が起こったら、警察官はどんな仕事をしているのだろう。

主体的な学びの手立て

交通事故が起こった直後に警察が活動している動画を提示することで、交通事故発生時の警察の活動について学習していくという見通しをもたせる。

Point

動画を活用した導入

導入では、映像資料を提示する等、社会的事象への関心を高めさせたり、解決への見通しをもたせるようにしましょう。

めあて
交通事故が起きたら、だれがどのように活動するのだろうか

◎ **個人で調べたり考えたりしたことを班で発表する。**

- ・私の考えはAさんと似ていて、警察は運転手から話を聞くだけではなく、交通整理等の仕事もしていると思う。
- ・みんなで書き込んだワークシートを見ると、110番に電話をしたら警察につながるだけでなく、消防にもつながることに気付いたよ。

対話的な学びの手立て

班に一枚のワークシートを配付し、警察や消防等の活動について調べたり考えたりしたことを記入させ、友達と比較させることで、新たな視点に気づきやすくする。

Point

考えた内容を明確にした説明

「私の考えはAさんと似ていて～です」「Bさんの考えとは少し違うけれど～です」というように、社会的事象についてどのように考えたのかを明確に説明できるようにしましょう。

交通事故が起こった時の警察や消防等の活動について、個人で調べたり考えたりしたことを発表する

◎ **班で考えをまとめ、発表する。**

- ・警察と消防は役割は違うけれど、互いに協力してけが人の命を守ったり、交通事故の現場が混乱しないよう交通整理をしたりしているんだな。
- ・私達の安全な生活は、警察や消防等の働きによって守られているのだな。

深い学びの手立て

板書した児童の発言を線や矢印でつないだり、同じ内容のものを枠で囲って「すばやい連絡」「役割分担」等のキーワードで整理したりすることにより、比較したり関連付けたりしやすくする。

Point

構造的な板書

児童の発言を板書して可視化し、線や矢印でつないだり、同じ内容のものを整理したりすることで、児童が複数の社会的事象を比較・関連付けしやすくなるようにしましょう。

班で考えをまとめ、全体で発表する

学習内容をまとめる

まとめ

交通事故が起きたら、警察が中心となって、消防等と協力しながらすばやく活動する

◎ **学習して分かったことを、自分の言葉でまとめる。**

- ・友達の意見とは違うところに注目することで、新しい考え方ができたぞ。
- ・警察の仕事についてもっと詳しく調べてみたいな。

○本時の学習を通して分かったことだけでなく、警察の働きに対する考え方が変わった点や疑問に思ったこと、もっと調べてみたいこと等を記述させる。

振り返りをする



授業づくりの視点

自分と社会との関わりを意識した課題を発見し、資料を集めて分析した後に、結果や分かったことをまとめる等の計画を立てる場面を設け、生徒が見通しをもてるようにしましょう。

課題について選択・判断したり、比較したりする際に、政治的な面から考えるとどうか、外国の立場から考えるとどうか等、多面的・多角的に話し合いができる授業づくりを工夫しましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 日本 の諸地域～中部地方～【第2学年】

中部地方の各産業がどのように発展・変化してきたかについて、位置や分布等の地理的な見方・考え方を働かせながら、その理由や経緯を追究し、現在はどうのような特色をもつ地域であるかを捉える単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

中部地方の三つの地域では、地形や自然環境等により異なる産業が発達したことを理解する。また、それぞれの地域の産業の特色を理解する。

思考力、判断力、表現力等

中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察をもとに多面的・多角的に地域的特色を捉え、その過程や結果を友達に分かりやすく表現する。

学びに向かう力、人間性等

中部地方の特色について、進んで思考・表現しようとしたり、社会的事象と自分との関連性に気付き、本単元で学習したことを自らの生活に生かそうとしたりする。

3 単元のデザイン 全5時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の課題をつかむ	◎産業の視点から見た中部地方の特色に関心をもつ。 ・今までに習った他の地方と比べると、盛んな産業の特色が分かりそうだ。 ・中部地方には富士山があるから、観光業が発達しているのではないか。
東海地域で工業が発達した理由について読み取る 本時	◎東海地域で工業が発達した理由について、資料を根拠に予想する。 ・名古屋港があり、製品の輸送に便利だから、工業が発達したのではないか。 ・東海地域は人口が多いから、工場で働く人には困らないだろう。
名古屋大都市圏と他地域の結び付きについて理解する	◎中部地方と、世界との結び付きについて考えたことを伝え合う。 ・環太平洋経済圏構想により、ロシアや中国との交流が盛んになっているな。
単元のまとめをする	◎分かったことや考えたことをまとめ、今後の授業や自らの生活に生かす。 ・交通の便がよく、水が豊富に得られることは、工業以外の産業でも重要だ。 ・私達の地域にはインターチェンジがあるから、部品工場が多いんだな。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 人口や産業の集中等の社会的事象から課題を見いだす場を設定することで、学習課題を自分事として捉えさせる。
- 単元全体を学習記録を基に振り返らせ、次の単元につなげる。

対話的な学び

- 中部地方の産業の特色について自分の考えを友達に伝えた上で、自分の考えとの違いを比べる場を設定することで、自分にはない新しい視点に気付かせる。

深い学び

- 農業、工業、観光業等の産業が発達した理由について、その理由は他の産業についても言えることなのかを問うことで、考える視点を広げさせ、概念的な知識を獲得させる。

本時のねらい

東海地域で工業が発達した理由について、自然的条件や社会的条件と関連付けながら追究し、自分の考えをまとめることができる。

本時の流れ

生徒の学びの姿

教師の手だて

本時のめあてをつかむ

めあて
なぜ東海地域で工業が発達したのかについて、資料を根拠に説明しよう

予想した理由について友達と比較し、自分の考えを発表する

工業が発達した理由を、既習の他の産業に当てはめる

学習内容をまとめる

まとめ
東海地域は交通の便がよく、水が豊富に得られる等社会的・自然的条件に恵まれているため、工業が盛んになった

振り返りをする

◎ **学習の見通しをもつ。**
・今日は中部地方の産業の中でも、特に東海工業地域について学習するのだな。
・前の単元で行った、資料収集の方法やまとめの仕方は、この単元でも使えそうだな。
・なぜ東海工業地域で工業が発達したのかな。理由を説明するためには、どんな資料が必要だろう。

◎ **予想した理由を裏付ける資料を選択し、それを根拠に互いに考えを発表する。**
・工業が発達したのは、Aさんが理由に挙げた名古屋港があることに加え、水を豊富に利用できる濃尾平野があるからだと思ふ。

◎ **工業発達についての考え方について、他の産業には応用できないかを検討する**
・交通の便がよいことや、人口が多くて働く人も多いこと、水が豊富にあること等は、農業にも必要なことだな。
・産業を発達させるためには、道路や河川のインフラ整備が必要だな。

◎ **学習して分かったことや、自分で考えたことをまとめる。**
・工業発達のためには、交通の便や資源だけでなく、歴史や伝統も関係しているんだね。
・他地域の工業発達の経緯についても、調べてみたいな。

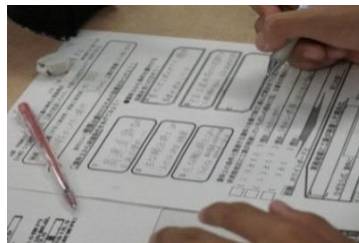
主体的な学びの手だて 東海工業地域を上空から撮影した動画を提示し気づきを発言させることで、本時の学習に見通しをもたせる。



対話的な学びの手だて 工業が発達した理由について、自分の考えやその根拠をもたせた上で話し合う場を設定し、友達のことを踏まえながら自分の考えを発表させる。

深い学びの手だて 「皆さんが挙げた工業発達の理由は、工業についてのみ言えることですか」と問うことで、既習の他の産業にも考えを巡らせる等、生徒の考える視点を広げさせる。

○次時の学習につなげるため、工業発達の理由について、新しく気付いたこと、考え方が変わったこと、もっと調べてみたいこと等を記述させる。



Point

生徒の疑問に基づいた問いの設定

社会的事象を提示し、「なぜ」「どのようにして」等生徒の疑問を大切に問いを立て、めあてを自分事として捉えさせるようにしましょう。

Point

視点を広げる話し合いの場の設定

社会的事象についての考えを交流させる際には、友達のことを踏まえながら自分の考えを発表させる等、話し合いながら新しい視点に気付かせたり、自分の考え方を広げさせたりしましょう。

Point

他の社会的事象に応用できる発問

生徒が考えている内容について、他の社会的事象についても応用できるかどうかを考えさせる発問を行いましょう。